

STREAMED 講座

運用編



アジェンダ

- #1 STREAMEDを活用するためのヒント
- #2 電子帳簿保存法・インボイス制度への対応
- #3 さらなる効率化のために



STREAMEDの導入理由

- 1 記帳代行業務の効率化 手入力を減らし、より付加価値の高い業務に充てる時間を増やしたい
- 2 スタッフの退職等による人手不足の解消 採用にかかるコストや退職リスクを抑えたい
- 電子帳簿保存法・インボイス制度への対応 できる限り工数を増やさずに対応したい



現状の課題

以下のような原因でつまずいていませんか?



利用顧問先の選定

どの顧問先で利用すればよいか分からず 顧問先登録が進まない



機能や設定の理解

様々な機能があることは理解しているが 重要なポイントがわからない



運用フロー

使いたい人が自由に利用しているので 事務所全体の効率化が見えない



本講座について

本講座を見て 頂きたい方

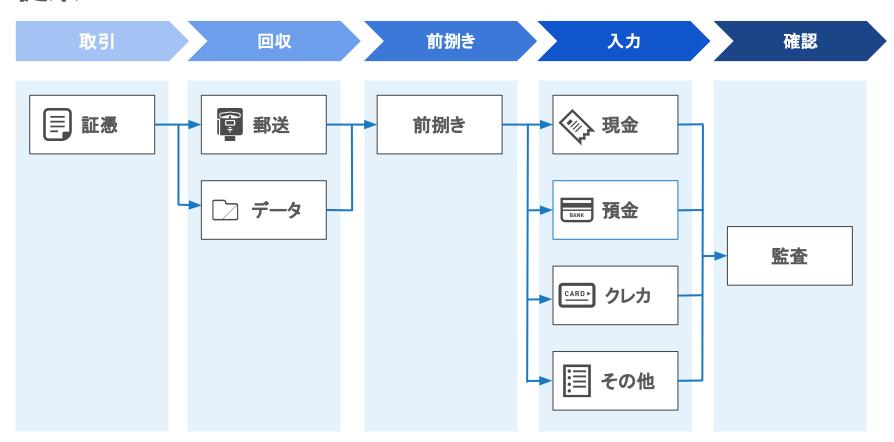
- ・具体的にSTREAMEDをどう活用すればよいか分からない方
- ・効率化のために導入を決めたが実感できていない方
- ・所内の運用ルールを見直したいが具体的な案が浮かばない方

本講座で 学べること

- ・STREAMEDを効果的に利用するための機能や運用フロー
- ・法令対応やクラウドを活用した手入力の削減など+αの情報

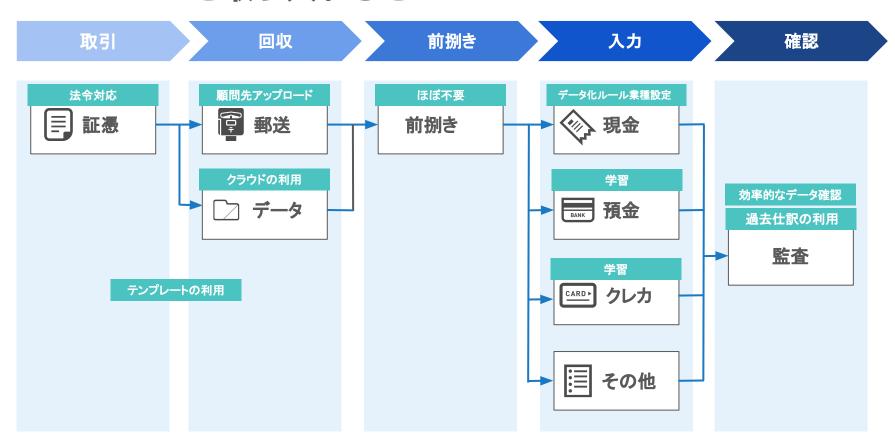


従来のフロー





STREAMEDを取り入れると・・





#1

STREAMEDを活用するためのヒント



【1】STREAMEDと相性の良い顧問先を把握

1

毎月決まった取引が多い顧問先

通帳やクレカ明細で毎月決まった取引が 多く発生している



学習機能を活かす

2

証憑の量が多い顧問先

領収書や請求書の数が多い 業種例)飲食店、クリニック



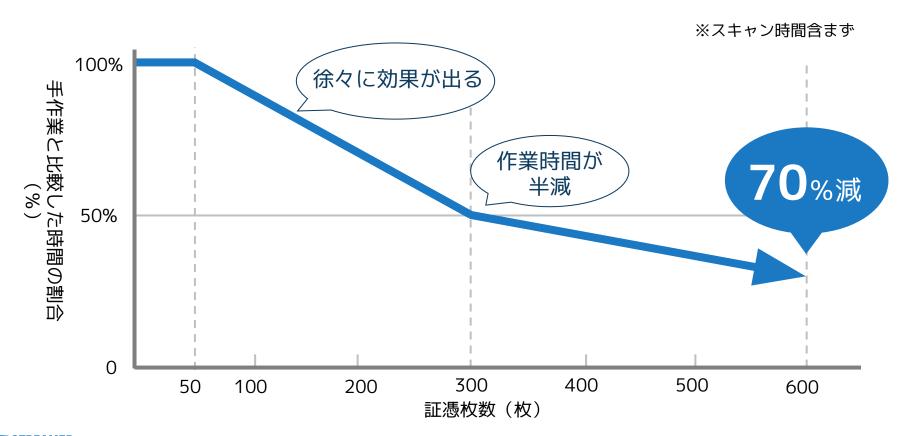
データ化ルール業種設定 を活かす

STREAMEDと相性が良い顧問先を把握することが

効率的にSTREAMEDを利用する第一歩です!



<参考>手作業とSTREAMEDの比較





【2】顧問先ごとに正しく設定する

STREAMEDは使えば使うほど精度が上がるものではない



顧問先ごとに設定を正しく整えることで「スキャンするだけで理想通りに仕訳データ化」を実現

「正しく設定」をするためには 実際のデータを確認しながら調整



次回ルールの設定を整える

STREAMEDには次回のルールを設定する方法が2つあります。 大きな枠組みでのルール設定と小さな枠組みでのルール設定をうまく使い分けて利用しましょう。

※2つのルールがぶつかった場合、小さいルール(「学習」)のほうが優先されます。

支払先の業種ごと

大きなルール設定

「データ化ルール業種設定」

支払先ごと

小さなルール設定

「学習」



学習 (1/2)

学習=特定の支払先/摘要に対する仕訳のルールを STREAMEDに覚えさせること



データ化された仕訳の勘定科目や摘要を

修正して「保存」

→次回以降に反映されない

修正して「学習」

→次回以降に反映される



学習(2/2)

できること

- 特定の支払先に対してデータ化ルー ル業種設定とは異なる勘定科目を優 先させる(領収書)
- 業種不明と判断され勘定科目が未確 定となった支払先に対して次回以降 勘定科目を反映させる(領収書)
- 支払先/摘要の部分一致で学習を反映させる
- 単一仕訳を複合仕訳になるよう学習 させる

× できないこと

- 口座ごとに学習をさせる
- 一つの支払先/摘要に対して複数の学習を させること(金額条件があれば可)
- 支払先ではなく領収書に記載の品目ごとに 学習をさせる



データ化ルール業種設定(1/3)



【STREAMEDのデータ化の仕組み】

- 支払先の①名称および電話番号をもとに 支払先の②業種を判定
- ③判定された業種に対して設定されている
 勘定科目を自動で入力

判定された業種に対して設定されている勘定科目



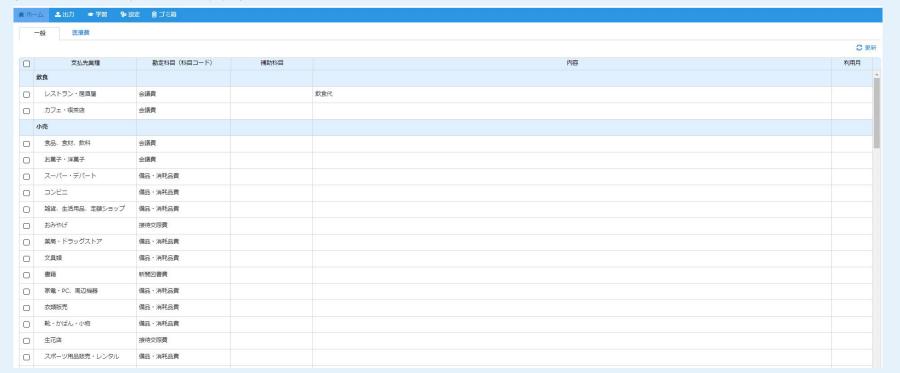
これを設定するのが

データ化ルール業種設定



データ化ルール業種設定(2/3)

設定>データ化ルール業種設定





データ化ルール業種設定(3/3)

できること

- 設定画面の「内容」に文言を追加しておくことで、データ化された際の摘要欄には「支払先+内容」が入力される
- 特定の業種に対する勘定科目の設定を「未確定」にしておくことで、データ化された際に勘定科目が入力されずエラーマークがつく

(経費性のチェックに活用)

× できないこと

- 食料品は福利厚生費でレジ袋は消耗品費に する等、税率ごとに勘定科目を設定すること
- 業種を追加すること



過去仕訳のインポート



*勘定科目/補助科目も同時にインポート可

会計ソフト内で作成済みの仕訳ルールを STREAMEDに反映させたい



過去仕訳のインポートを利用

(MFクラウド会計と弥生会計のみ可)

【手順】

- 1. 設定>過去仕訳取り込み
- 2. 会計ソフトから出力した**①仕訳帳をファイル選択**し確認をクリック
- 3. **②OKをクリック**して過去仕訳を取り込む
- 4. 仕訳の編集画面で右上の**「過去仕訳」をクリック**し、該当する過去 仕訳があれば**「反映」させる**



設定のコピー/テンプレートの作成



データ化ルール業種設定・学習・勘定科目 これらは顧問先ごとに設定が必要



顧問先登録の度に設定をするのが大変なら・・

設定のコピー/テンプレート作成を活用

【手順】

- 必要な設定を整えた顧問先を作成し顧問先名を 「テンプレート」とする
- 新規顧問先登録時に①「既存の顧問先から設定をコピーする」 に√を入れ、コピー元として上記②「テンプレート」を選択
- 3. **③コピーしたい項目**を選択



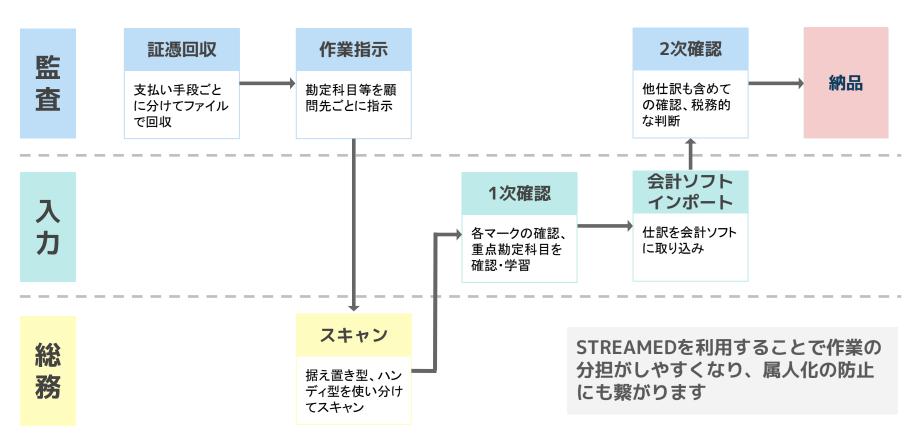
【3】運用フローを整える





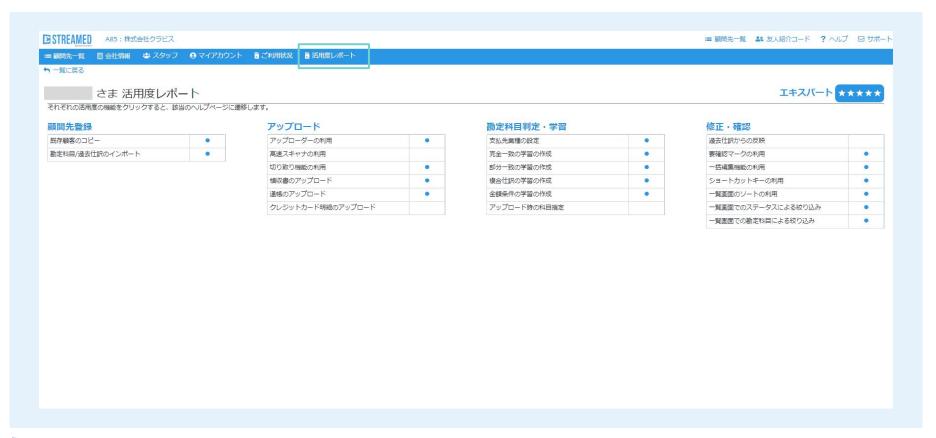


業務フローの例





活用度レポート





【4】資料の回収方法を整える

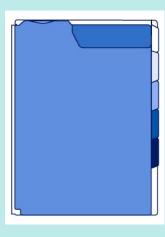
資料の回収方法は統一していますか?



- ホチキス留め、糊付けされた資料
- ぐしゃぐしゃに折られた資料 など

スキャンをするまでに時間を要してしまい 作業効率が悪化

回収方法の標準化を検討しましょう

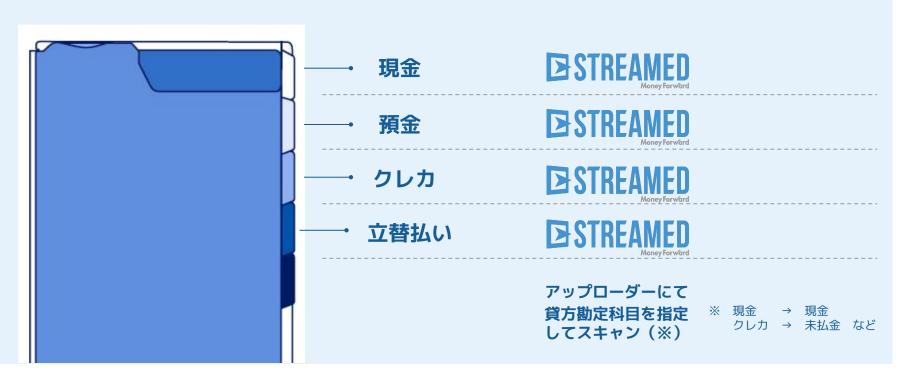


顧問先にファイルを渡し 提出方法を指示することで 作業負担を削減



おすすめの回収方法

- ・証憑は複数タブが付いているようなファイルを用意して回収する
- ・支払い方法によって、回収後の作業が決まる事が多いので「支払い方法別(B/S科目基準)」でタブを分けて回収



回収ファイルの中身(例)

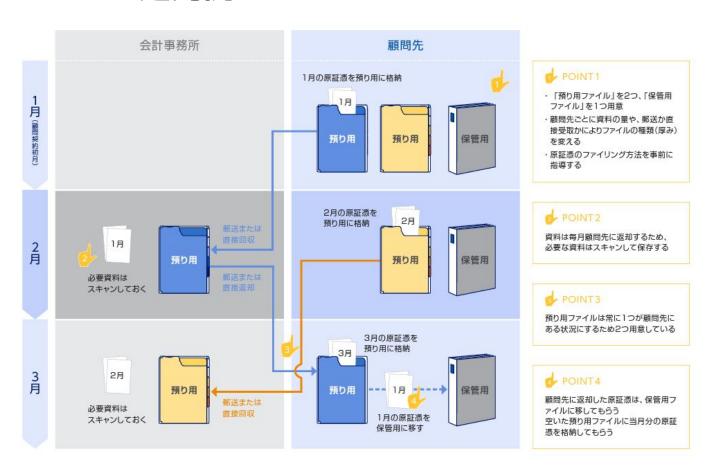








回収ファイルの運用例





#2

電子帳簿保存法・インボイス制度への対応



【課題】インボイス制度

インボイス制度に対応するためには下記の課題が考えられます。



記帳処理の工数が増える





発行者

インボイス対応の 請求書の 発行が必要になる







その他の請求書



発行者

インボイス制度対応 の**システム導入**





【課題】電子帳簿保存法

電子帳簿保存法に対応するためには下記の課題が考えられます。

電子取引

証憑書類を **適切に保管する 義務**がある



スキャナ保存

証憑と仕訳の紐付け &保管方法 (選択制)



電子取引

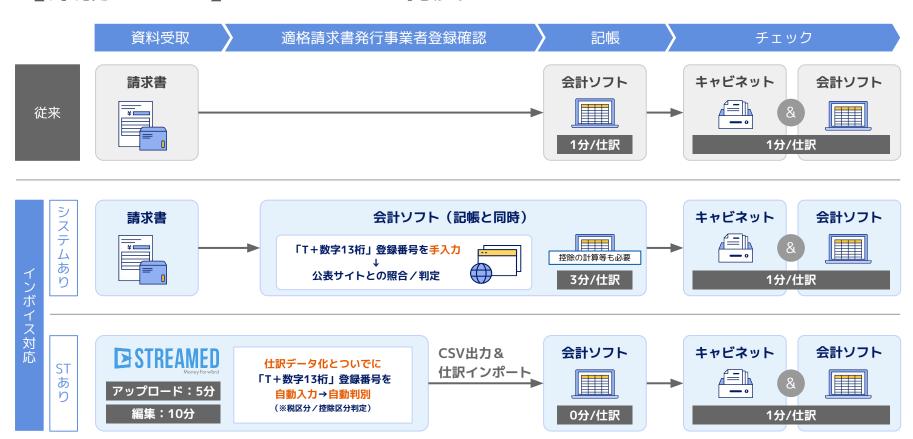
スキャナ保存

電子帳簿保存法対応のシステム導入



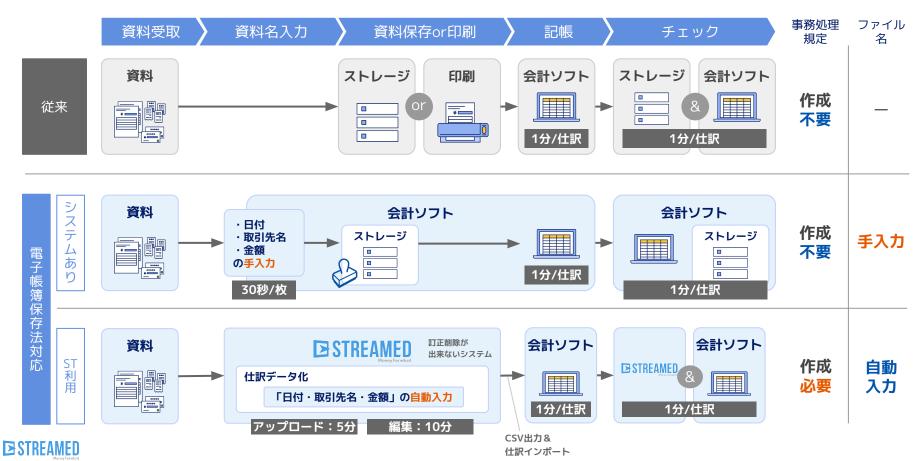


【業務フロー】インボイス制度





【業務フロー】電子帳簿保存法

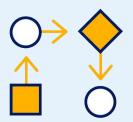


31

【メリット】ツール導入

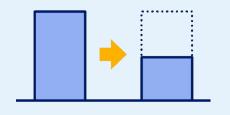
メリット①

今までの **業務フローを大きく 変えずに** 法令対応が可能



メリット②

法令対応で 工数が増えず、 **工数削減**が 容易に可能





#3

さらなる効率化のために



さらなる効率化のためにできること

STREAMEDを利用して手入力にかかっていた時間を減らすだけでなく より一歩進んだ効率化をご提案します



顧問先アップロードの利用



Ø Money Forward
 クラウド会計
 クラウドの活用



顧問先に証憑を直接アップロードしてもらう ことで「回収の手間」を無くす

銀行口座やクレジットカードを連携し「紙で回収」そのものを無くす



顧問先アップロードの利用



【招待の手順】

- 設定>基本情報の画面で「①顧問先担当者」および
 「② 顧問先のメールアドレス」を入力
- 2. 「③保存」をクリック
- 3. 顧問先担当者にパスワード設定のお知らせが届く
- 4. パスワード設定が完了するとSTREAMEDにログイン可



会計事務所と同様の方法でSTREAMEDにアップロード可能顧問先専用のスマホアプリも利用可(レシート・領収書のみ)



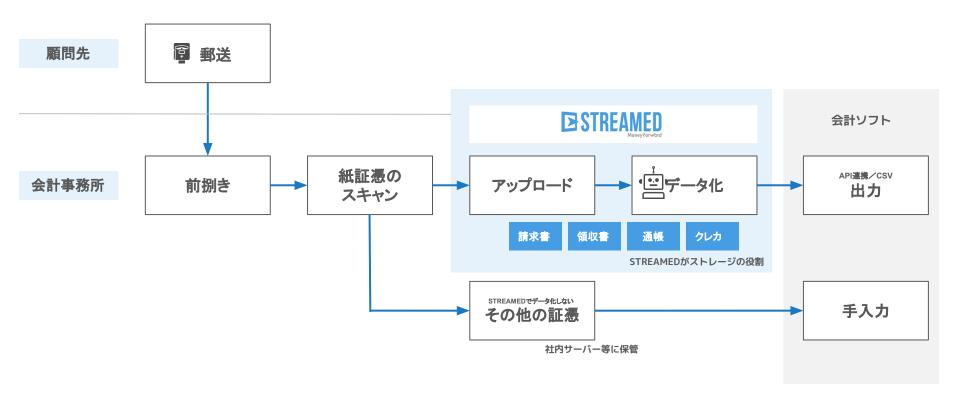
iPhone版



Android版

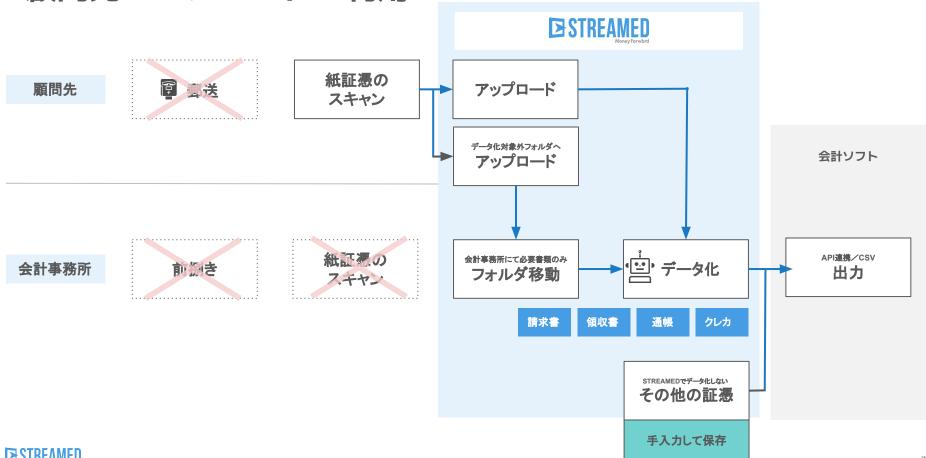


従来の証憑フロー





顧問先アップロードの利用



クラウドの活用(マネーフォワードクラウド会計)

バックオフィスに関するさまざまなデータを連携し、業務を自動化

従来は紙から紙への転記・紙からソフトへの入力に工数がかかり、ミスが発生していました。 マネーフォワード クラウドではテクノロジーを活用し、電子化されているデータを会計ソフトに自動で取り込めます。

\手入力の割合が約30%※まで減少 /

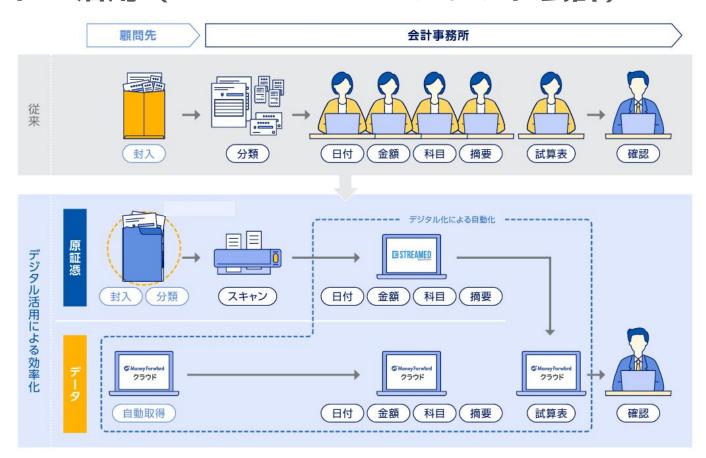
※当社調べ

従来の方法 「帳票が散財する 「手入力の 作業が手間





クラウドの活用(STREAMED×MFクラウド会計)





クラウドの活用(マネーフォワードクラウド会計)

マネーフォワード クラウド会計で連携できるデータ

インターネットを通じて取引データを自動的に取得。他のクラウド会計ソフトの中でもNo.1の対応率※1を維持しています。

金融関連サービス対応率 No.1※1

2,438

個人用口座・法人用口座(※2)100%対応 電子証明書にも対応

他サービス連携数もNo.1

タブレットレジ/決済端末/ 通販サイト/ECサイト等と連携

























































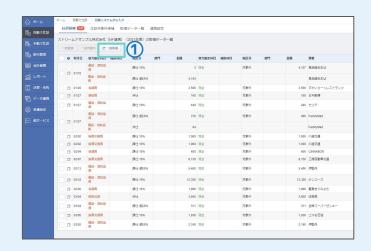
※2 都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫における法人口座対応率

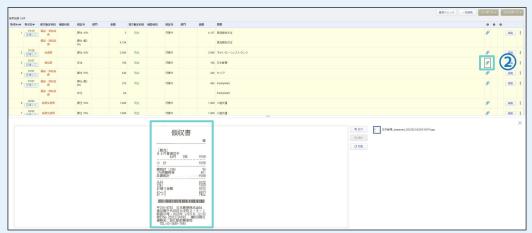


^{※1} 当社調べ。2022年02月28日現在。なお、対応金融関連サービス数は、接続方法を問わず、接続先サービス毎に集計した合計数となります。

記帳システム連携

「記帳システム連携」を利用するとSTREAMEDからMFクラウド会計へ 仕訳データに加えて画像も送ることが可能です





連携設定が完了したら①「一括取得」をクリック

②クリップマークを押すと証憑画像が表示される





日本の会計シーンを変える

すべての企業にあまねく存在し、必須の存在である会計。 クラウド会計ソフト、Fintechといったキーワードを聞く機会も増 えてきましたが、

経費精算、請求処理、入金処理…いまだ多くの業務は紙であふれ非 効率な業務が行われています。

そんな日本の会計シーンを変え、

働く時間を有意義で生産的な時間に変えていくことができる。 それが私たちのサービスです。

本資料に記載された情報はマネーフォワードが信頼できると判断した情報源を元にマネーフォワードが作成したものですが、その内容および情報の正確性、完全性等について、何ら保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものではありません。 本資料に記載された内容は、資料作 成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。 本資料はお客様限りで配布するものであり、マネーフォワードの許可なく、本資料をある客様以外の第三者に提示し、閲覧させ、また、複製、配布、譲渡することは堅く禁じられています。 本文およびデータ等の著 作権を含む知的所有権はマネーフォワードに帰属し、事前にマネーフォワードの書面による承託を得ることなく、本資料に修正・加工することは堅く禁じられています。